



【北つくば】持続可能な開発目標（SDGs）の「目標14―海の豊かさを守る」で取り上げられる問題の一つに、マイクロプラスチックが挙げられる。

JA北つくばは、マイクロプラスチック流出問題の対策として、プラスチックコーティングを使用しない肥料の普及拡大に向けたプロジェクトに取り組んでいる。同プロジェクトにはJAや全農いばらき、茨城県農業総合センター農業研究所、筑西地域農業改良普及センター、肥料メーカーの

JA北つくば マイクロプラスチック流出削減



「コシヒカリ」の試験状況を確認する関係者

水稻肥料を置き換え

片倉コープアグリと朝日アグリが参加する。プラスチックを使用した被覆肥料は、徐々に肥料成分が溶け出す特徴があり、農業分野において作業の省力化や、肥料の投入量節約などのメリットがあるため広く使用されている。地下水などの水域への栄養分の流出なども抑えられ、環境負荷の低減が期待できる一方で、使用後の被覆殻が圃

場（ほじょう）から雨や風などによって海に流出し、海洋生物への影響が懸念されている。同JAでは2022年から、水稻用にプラスチックコーティングを使用しない緩効性混合堆肥複合肥料を使った試験を行い、マイクロプラスチック削減に取り組んでいる。試験は「コシヒカリ」を対象に、肥料を置き換えた際の生育・収量・食味などの項目について確認。3年目となる今年はプロジェクトの最終年度で、10ア当たり540kgの収量を目指す。試験で結果が得られた緩効性混合堆肥複合肥料については「新マトリックス」の商品名で販売を予定。管内の生産者に向けて、今後普及拡大を図る。